



子どもの姿が出発点 ～「接続の質」を高める保幼こ小連携をめざして～

本市では、令和6年度から令和8年度までの3年間、上田小学校校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）を架け橋プログラムのモデル校区とし、保幼こ小の架け橋期の教育の充実をめざしています。この通信では、モデル校区の取組を紹介していきます。

第1回
連絡部会

子どもの姿を中心とした語り合いから「育みたい力」を見出す

例年開催している保幼こ小第1回連絡部会においては、主に交流活動の年間計画や実施方法等について確認する場となっていますが、上田小学校校区では「めざす子ども像」を明確にするための協議を行っていただきました。協議を通して「**小学校と就学前施設の子どもの姿を見る視点、教育観の違いがあること**」「**就学前施設間でも子ども観・保育観が違うこと**」という課題が見えてきました。しかしそれは、立場や文化、学校種（施設類型）も違う中においては至極当然のことではないでしょうか。保幼こ小互いの教育・保育における見方・考えの違いを、対話を通して理解（尊重）し合っていくことが架け橋プログラムの理念を実現させるための第一歩となるのではないかと思います。



モデル校区Zoom会議の様子

見えてきた子どもの姿と育てたい力



- ◎ 3以上の数が数えられない子がいる。（小学校）
- ◎ 自分の気持ちを伝えられず泣く子がいる。（就学前施設）
- ◎ 新しい環境になると、できていたことができなくなる姿が見られる。（就学前施設）

自立心

言葉による
伝え合い数への
関心・感覚

こちらのQRコードから幼児教育と小学校教育の特徴や大切にしていることなどがわかりやすく示された資料がダウンロードできます。また、遊びを通した学びについての動画も視聴できますので、是非ご参考にしてください。



横の連携の充実を図る ～担当者同士が必要性を持った連携～



校区連絡部会の様子

校区の担当者が中心となって主体的に連絡部会の実施がなされていました。内容としては、主に交流活動の日程調整を行い、互いが意見や提案を出し合い、とても建設的な話し合いの場となっていました。子ども同士の交流も大事ですが、職員同士がつながり合う大切さも実感させられました。

